

東由利村報

No. 68

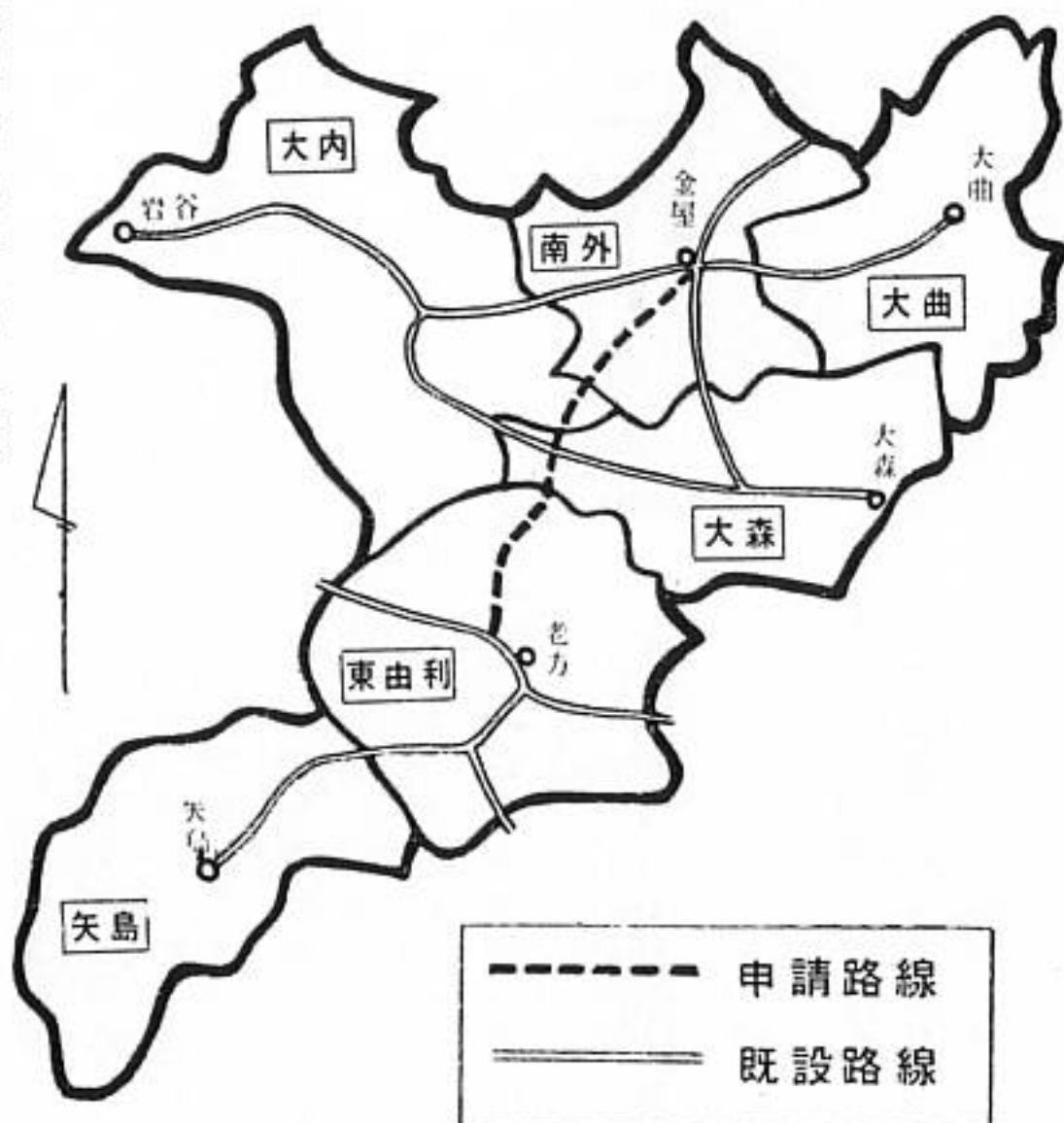
37・10・1

発行所 秋田県東由利村役場
印刷所 株式会社 本間印刷所

大曲・矢島線 県道編入に全力

縦断路線として県でも重視

いま本村では村道法内線を経由して本荘・大曲線に結ぶ路線の県道編入に全力を上げています。この路線は蔵を起点に大森町坂部、大内村羽広を経て南外村金屋にて県道本荘・大曲線へ連絡大曲市へ至るもので、既設の県道玉米・矢島線と結んで大曲・矢島線として県道編入の実現を期そうとするものである。この路線については戦後いち早く関係町村間で県道編入期成同盟会を結成し運動を続けてきたが今日まで陽の目をみずこの度本村が主体となり関係市町村（大曲市・大森町・矢島町・南外村・大内村）が一丸となつて県に働きかけた結果、県でもこれを重視して、去る八月七・八日にわたり県土木部主事の現地踏査が行われ、また九月二十七日から開かれた



県の会期中には土木委員の調査が予定されている。

一応の見とおしとしては主要道路整備計画の一環として、本県関係では横断路線を縦につなぐ線が不備のことから県当局でもこの種の路線を重視しており、わけても本荘から矢島・笹子を経て西馬音内に至る路線、二級国道一〇七号線、横手・中田代線、本荘・大曲線と四つの路線

教育委員に青木氏を任命

玉米小学校に給食場設置

第7回村議会定例会

第七回村議会定例会は九月二十七日役場に招集された。

提出された案件は玉米中学校特別教室の工事請負契約、玉米小学校給食場の建築、一般会計追加更正予算、教育委員の任命など十件で全部原案どおり可決された。主な議案次のとおり

▽37年度一般会計追加予算（追加額五二三万円、総額一億二六四万円）

追加になった主な歳出予算は橋梁改良費一〇万円、住吉小学校特別教室備品費五〇万円、玉米小学校給食場設置費一九四万円、玉米中学校特別教室事業用器具費四九万円、草地改良事業費一八八万円、黒淵診療所特別会計

目をひくコバハンの成長ぶり

昨春、本村では全県にさがかけて早成広葉樹普及のためコバハンノ木苗木を寄寄せ、各部落にも交付して試験的に植栽してきたが、その成長のあまりにも早いのに驚いている。このままいくと十三年で伐採しても一〇アール当り一八



立方メートル（約六四石）の生産は、確実で、一石当り一千円としても六四万円でも夢のような

をぬい、さらに矢島から象潟に至る路線、大曲から生保内に至る路線と結んで、国道七号線の南端から岩手県境にまで県南部を斜めに縦貫する重要路線となるので、大いに有望であると思われる。

とりわけ沿線地帯はぼう大な山林資源と耕地を有し、これらの開発が待たれていると同時に、総合産業の一つである観光事業が大きくクローズアップされてきた昨今、栗駒・鳥海県立公園という二つの卓越した観光資源を結ぶ周遊コースとしても大きな価値が生れてくるわけで、長期経済構想の点からぜひとも実現させたい路線である。

本村としてはこれが実現すると先の沼館線の昇格とあいまって村内の主要路線はすべて国・県道となり、改修の促進などで村民の利益はいうに及ばず、さらにこれら路線の交差点化が現実となるのであつて全村民のいま一段の理解と協力態勢が強く望まれているのである。

戸籍事務優良で表彰状

本村は戸籍・住民登録事務の刷新と改善につとめ、東北六県内でもよい成績を上げたとして仙台法務局長より表彰状と金一封を贈られた。

教育長に小松（雄）氏

委員長らは留任

前教育長の長谷山千代蔵氏は九月三十日をもつて教育委員としての任期が満了し退職されたので、十月一日行われた教育委員会では新教育長に小松雄治郎氏（60歳・館合）を選任、県教育委

員会の承認を求めて任命することになった。なお同日の会議で委員長に小松忠一郎、同職務代行者に阿部寅静の両氏の留任も決つた。

経済連の市場開設申請

生産・流通一本化のため

□□□ 家畜市場問題のあらまし □□□

九月家畜市場を中心に、いわゆる由利畜協と対立という形で問題が表面化し、一時的に混乱をきたしたが、これは県経済連が市場開設を県に申請していることからその話し合いの過程にあつての出来事であり、その後も村及び農協は経済連をとおして当初の方針どおり生産者のための新しい流通機構をうちたてるため県に働きかけており、解決までいますこしというところである。これまでの経過、この問題に対する考え方など大要を述べ、理解をいただくと同時に、実現のためより一そうの協力をお願いしたい。

矛盾を除き生産者に

有利な市場を

郡内の家畜市場は由利畜協の手で行われてきているが、各農協と町村の間から生産者のための家畜市場をという声が強まり、これにもとづいて県経済連が由利郡内の市場開設を県に申請した。

経済連がこの市場開設にふみきつた根本的な理由は、いわゆる生産者の団体であるところの経済連が家畜の生産から流通まで一貫して担当すべきである、ということにある。

ら、生産から流通まで一体化して生産者のものにし、さらに畜産の振興をはかつていこうということにつぎるのである。

一方、この申請を受けた県では市場権の取扱ひの問題などでもだ議論がでず、いますこし時間が必要とする状況にあるが、すくなくとも県ではこの申請が生産者大多数の要求として無視できない立場にある、ということではある。

大きい流通機構を

つくる足がかり

そこで問題となるのは市場を畜協でやろうが、経済連でやろうが、どつちにしても高く売れればよいでないかという考え方である。

たしかに農家個々の家畜の一头売りではこの考えも通るが、これで現在の進みゆく経済状況の中で農家経済、ひいては農村経済を発展させうるかというと、大きな疑問がある。

農村に押しよせる大資本の攻勢に対抗し、お互いの利益をよう護していくためには大きな組織と系統をふまえ、共同による大

耳よりな保険料の納め方

秋田相銀の国民年金預金

保険料はひとりでに納まるし六十歳の被保険者期間がきれるときには元金に雪だるま式の利息がくつついてかえる耳よりな納め方がある。

こんど秋田相互銀行が取り扱う国民年金預金制度がそれである銀行が被保険者から国民年金預金の申し込みを受けるとき、一定額の自動継続式定期預金(原則として五万円)を預かり、毎

年一回その利息で銀行が被保険者に代つて保険料の前納手続きをとるものである。

例えば、現在四十歳の被保険者がこれに申し込むと満一年目に二、七五〇円の利息(五万円に対し年率五分五厘)がつき、この年から一年分の割引き前納保険料一、七六〇円を銀行が国庫に納め、利息の残額九九〇円を元金五万円に加え、この合計額

量の集出荷をはかり、生産コストを下げ、景気にビクビクしないでもしか商品として価値の高いものを売り出すという方策をとらなければ、これからの農村経済の発展はおぼつかないし、時代はそれを要求している。

農業改善事業は、単に生産の方法や仕組みを変えるばかりでなく、この流通機構もあわせ、整備され、開拓されて、農業が企業として成り立つてはじめて百パーセント達成されたことになる。それでは、その組織や系統はだれがつくり、だれがやるかというと、借りものでない農民自らの力を結集したところの農協であり、経済連でなければならぬのは自明である。

したがって経済連の市場経営問題も、これらを実現する一つの足がかりとして考えていただきたいのである。

農協の発展をとおして農家の発展をはかり、豊かな村づくりを果していくべく、この市場問題は生産者自らの問題として受けとめ、実現のためよりつよい結束が望まれるのである。

滞納のため万一の事故があつても年金をもらえなかつたという事態は全くおこらない。

したがって最初申し込みのとき定期預金の五万円と最初の一年分の前納保険料を国民年金手帳とともに銀行にさしだせばよいわけで、もちろん途中で解約もできるし、死亡などで被保険者でなくなつたときには預金とこの間の利息とがえつてくる。

この年金預金制度の登場で、高年の被保険者からの、規定の保険料に任意の額を加えて納めてもよいから、年金額をもつと多くしてもらえないか、との希望もある程度かなえられるのではないかと考えられる。

詳細は役場年金係、または秋田相互銀行支店・営業所まで。

社福へ香典がえし

小松徳蔵氏(湯出野)は亡くなられた母の香典がえしのかわりとして村社会福祉協議会へ三千円寄附された。



県政ニュースで紹介されたスリー・スターズ……

ミツボシ衣料株式会社(社長島山国太郎氏)で働いている高橋次雄くんが中身な青年になつて結成しているハワイアンバンド「スリースターズ」の有志5名の慰安の村民も出演した公演として好評を呼んだが、県政ニュースにこれを紹介した。【写真はこのスリースターズの演奏】

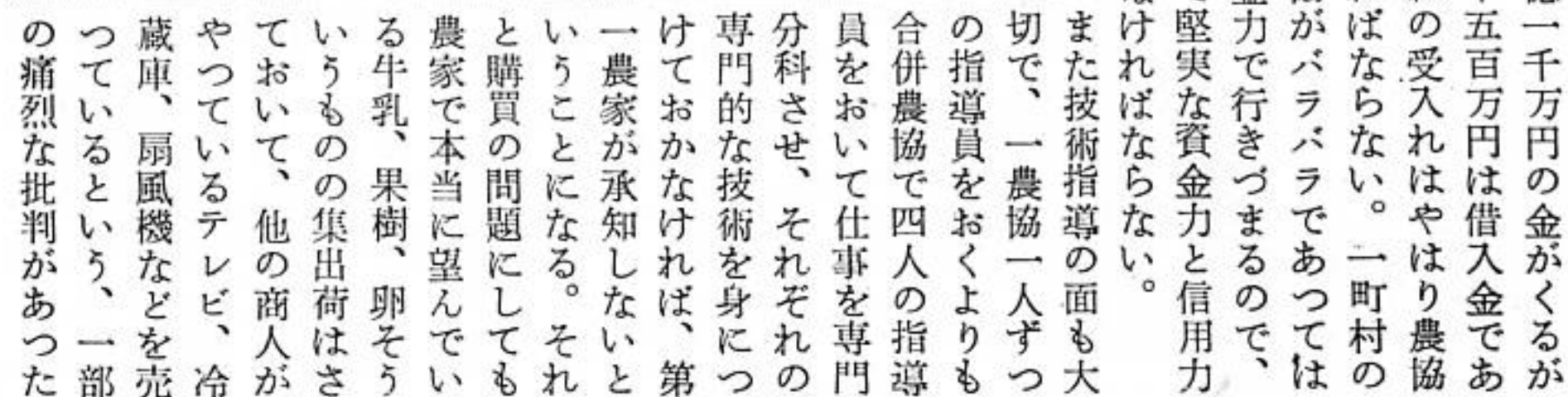
ズターズが郷土村自ラクシだ県紹介された。【写真はこのスリースターズの演奏】

合併が構造改善指定村の前提

去る八月四日、秋田県知事はじめ県首脳部二十余名が来村して本村各行政・団体長らと行政懇談会を行つたが、席上知事は目下の急務となつている農業構造改善事業を進める上に必要な農協合併問題に對する考え方について、大要次のような所信を表明された。

これをどうし

て解決するかというと、だれが考えても徹底した機械化と共同化を進める以外に方法がなく、そして年間で二つの一番高い労働力の山であるところの田植と稲刈は直播とか機械化によつて低くし、低いところは畜産とか果樹などを入れて高くするといふように年間通じて平均した労力配分を行わなければならない。これが労働力の生産性の向上であり、さらに土地改良を行つて、労力を省きながら米を増産し、米を基盤に畜産などをとり入れた多角経営を行い、この過程にあつて共同化を進める、すなわち農業構造改善事業であつて、これを推進するのが農協である。農業構造改善事業の指定をうけ



発展を願う意気どみの結晶

このほど大琴部落にりつばな会館が誕生した。

この会館は総建坪六五坪の二階建木造モルタル仕上げで、内部施設は大集会室・ステージ兼用の小委員会室・子ども室・当直室などにわかれ、工事はさつ

がまつたくそのとおりで、大切な農産品の集出荷をはかるためには小規模の農協ではどうにもならない。このようにあらゆる面で農協合併をけからわなければならぬ段階にきている。

感情・役職員問題・
利己心が合併の障害

それでは一体、何が障害になつてゐるかというと、感情問題、役員の役職の問題、自分たちの方は米だけあれば何とかやつていけるといふ利己主義、どんなに議論してもこれしかない。先般の町村長会議で、農業構造改善事業町村の指定は、農協合併ができないところには絶対にしないと言明した。理屈でわかつても感情にはしるようなところでは事業の遂行は、覚つかないと考えられるので、どんな批判があつても絶対に指定しない方針である。米だけにすぎり、肥料だけ売つてはたして農民のための農協といえるだろうか。むしろ困難に飛びこんで積極的に道をつけるのがこれからの農協でないか。どうか当村でも農協合併で前進し、改善事業の指定村となられるよう希望する。

【写真は行政懇談会で所信を表
明する県知事】

本年産米予約
六万三千俵

本年産米の搬入はすでに始まっているが、八月一つばいで締切られた本村の予約量は昨年より二、九〇〇俵ほど多い六三、九六俵となつてゐる。

この数字は昨年の売渡し実績より五、五〇〇俵も少ないが、作況が悲観的であるだけにはたしてどうなるか心配である。

最少限度この予約量だけはぜひとも達成させたいものである。

農協別予約数量

(農協別)	(37年 予約量)	(36年 予約量)	(36年 売渡実績)
玉米	28.351	26.938	30.704
老方	11.090	10.750	12.077
中央	14.112	13.466	15.704
下郷	10.443	9.882	11.096
合計	63.996	61.036	69.581

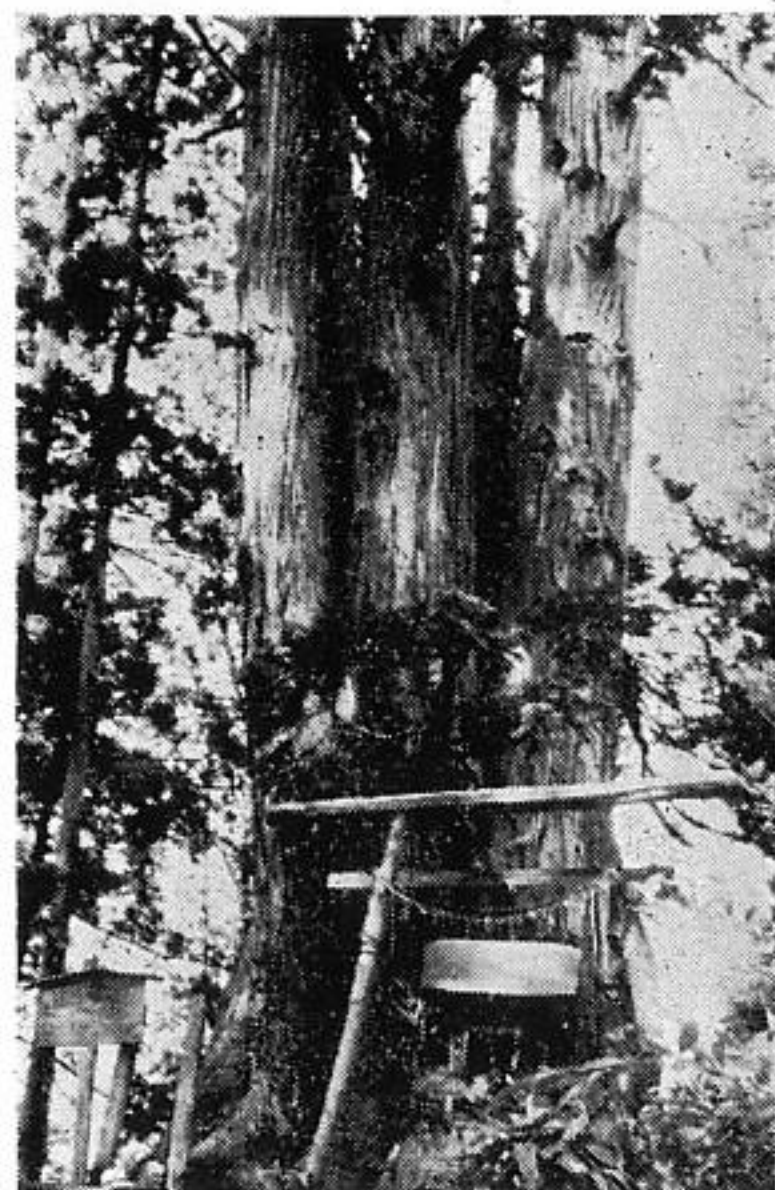


これから部落の人たちのいいこ
いゝの場、話しあいの場として
冠婚葬祭場として、子ども会の
育成道場として、また農繁期の
託児所として活用しようとのこ
会館によせる部落民の夢は無限
に大きい。ともかく大火に屈つ
せず復興にたち上がり、さらに
発展を願う部落民の一致した力
がこの会館の誕生となつて現わ
れたものといえようか。

【写真は、大琴部落会館の全景と喜びの開館式】

「八本杉」を天然記念物に申請

興味あるナゾの解明



うちでもつとも興味をひくのは、なぜこのような形状に生成したかという成長の

本村法内字白ヶ沢国有林にある俗称「八本杉」といわれる天然木を県の天然記念物として指定を受けるよう申請することになった。

この杉は一つの幹が途中から八本に分岐していることから「八本杉」と呼ばれ（現存は七本）樹高四六メートル、周囲一一メートル、樹令は三〇〇年から五〇〇年と推測されている。

過日、村内の遺跡等を中心に文化財調査が行われたとき来村した調査員がこれを視察して、とくに県内でもめずらしい形状の天然木であり、ぜひ保護対策を講じられるようにとの助言にもとづいて本村ではこれを管轄している本荘営林署と話しあい、指定申請を行って県文化財保護専門委員の現地調査をうける運びとなったもの。

この八本杉には多くのナゾが秘められているが、それらの

ひびき、くわえて穂首イモチ病の多発によつて大打撃をうけ、

第2回作況調査の報告から

平均 1 ～ 2 割の減収

安定増収へ研究の余地

本年度第二回水稲作況調査は九月十一日遠藤徳太郎・佐々木宇一郎・小野作右工門・高橋重助・長谷山直助の五氏によつて行われた。この報告によると、今年は冷害型の気象であつたことが生育全般に

九〇～九五、玉米地区はもつと低く八〇～八五で、ところによつては半作程度のところもあると悲観的である。一般に米の収量は頭うちといわれ、これは技術向上を物語るものであるが、特に今年の作況をふりかえつてみると天候条件や自然障害などの対策を技術的に解決し、安定増収をはかつていくための研究の余地がまだまだ多いといえようか。

冷害の影響と穂首イモチが大打撃

①穂首イモチ病の被害がいちじるしい。局部的には五〇％以上の減収と思われるものもあり特に玉米地区の被害がはなはだしい。その他病害では全般に白

②全般に生育が、やや遅れている。
③一部に葉害が見受けられた。
④今年気象は冷害原用型であつたこと。
⑤六月後半からの低温障害で初期生育が遅れ、軟弱徒長に育つてイモチ病の誘因となつたこと。
⑥穂首イモチ病の防除が適期防除を失した傾向にあること。
⑦軟弱化した原因として磷酸肥料が一般に不足であつたように推定されること。
⑧全般にチツ素過多だつたこと
今後の問題点 ①品種の選択について研究が必要（特に耐病性）
②省力栽培と初期生育の促進についての研究。
③配合肥料、化成肥料の施用上の研究。

県民手帳の予約募集

いま三八年版の県民手帳の予約募集を行っている。これには県内の統計や名簿、生活便覧などの資料も豊富で、日常には大変便利なものとなつてゐる。一冊九〇円で希望者は今月二十日まで役場統計係へ申込まれること

ものという説などいろいろあるが、やがて調査が進むにつれてこれらのナゾも解明されまた新しい問題も掘りおこされてわれわれに興味つきない多くの話題を投げかけてくれるだろう。

【写真は県天然記念物の指定申請を行う、話題の八本杉】

みんなで道路を広く強化されたパトロール

車の増加とスピード化で、多発

が予想される交通事故を未然に防ぐため、交通のじやまになる薪・材木・立看板・自動車などの放置や稲架などで道路を使用することを厳につしまれるよう望んでいる。

共同募金はじまる

この十月一日から「たすけあいの心を倍に」をモットーに赤い羽根共同募金が展開されている。

今年の本村の目標額は一八九、五八二円で不幸な人たちに温かい愛の手をさしのべ、みんなが平等に平和な生活をおくつていけるよう、全村民の協力が望まれている。

法内、遠藤藤左工門さん方では八月から野田温泉「竜藤閣」を開いた。

これは「野田の湯ツコ」として古くから知られてきたもので、薬効は大内村滝温泉とまったく同じ、皮膚病・打身・神経障害などにはもつてこいという。

開館早々、湯治客がワンサと押しかけ、住宅の奥座敷も休息室

にあてなければならぬほどのにぎわいぶりである。

【写真は開湯した野田温泉】

法内・野田温泉開く

